

2012年2月10日

(第33号) 冬号

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —



日本医療機能評価機構 日本医療機能評価機構認定病院

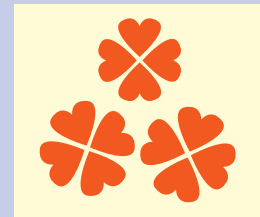
平成24年(2012年)

2月



第33号

身近な病気 Q&A

栃木県における
放射線の影響について

獨協医科大学 RIセンター センター長 楯 靖

福島原子力発電所事故により放出された放射性物質（放射線を出す物質）は、福島県だけでなく関東地方にも広く拡散しました。

震災があった昨年3月の時点では、空気中にも、地表にも、河川などにも放射性物質が存在している状態でした。皆様も、大変ご心配なされたことと思います。放射線の影響について、私たち放射線の専門家がよく尋ねられる内容をまとめましたのでご覧ください。



放射線ってどこにあるの？

私たちは自然界から様々な放射線を常にあびています。宇宙や大地からの放射線を受け、空気中や食物の中に含まれている放射性物質からの放射線もあびています。

私たちが1年間にあびる放射線の量は、平均すると2.4ミリシーベルト程度といわれています。日頃から放射線をあびる私たちの体は、少しの量の放射線には充分耐える能力をもっています。



原発事故の影響は栃木でもまだあるの？

今回の原発事故で、栃木県における放射線の量が高くなったのは、放射性物質が空気中を流れてきて、地面、森、川などに落ちたためです。

現在、放射線を出す寿命が短い放射性ヨウ素の影響はほとんどないものの、寿命の長い放射性セシウムは今も地面や植え込みにあり、放射線を出し続けています。ただし、その放射線の量は、体に影響を与えるには遠く及ばない程度です。また事故直後空気中にあった放射性物質は落ちてしまい、現在は空気中ではありません。



食べ物や水は安全なの？

市場に流通している野菜や魚は、放射線に関する検査を受けて大丈夫と確認されています。

水道水も専門機関が毎日検査をしており、万が一規制値を超えるようなことがあれば、すぐに皆さんに伝えるように発表があります。

今後も、新たに収穫の時期を迎える野菜などの放射線量が報道されることがあると思いますが、これは食の安全を守る検査体制がしっかりしていることを表すものです。規制値以下の食べ物に関しては安心して召し上がって下さい。



子供が外で遊ぶことは大丈夫なの？

栃木県の地面に落ちて今も残っている放射性物質から出される放射線の量は少なく、体への影響も考えられない程度であることから、外遊びや屋外での授業を制限する必要はありません。



あびる放射線の量を減らすために、何か私たちにできることはあるの？

今は地面の土に固着している放射性セシウムの影響が最も大きいです。発せられる放射線の量はわずかなので、「土遊びをしないように」と制限するほどではないと思います。

土遊びをしたら、手を洗う、うがいをする、服のほこりを払う、靴の泥を落とす、など通常の清潔を保つ行為により放射性物質を遠ざけることができます。泥がついている衣服を特別に扱う必要はなく、普段通りで洗濯してください。

空気中に放射性物質が漂っているわけではありませんので、洗濯物は外に干すことができます。土埃が舞うほど風が強いとき以外は、窓を開けて換気してもかまいません。



総出動件数900回達成 栃木県ドクターヘリが運航開始2年を迎えました



栃木県ドクターヘリが運航を開始して2年を迎えました。

出動件数は消防機関からの出動要請の増加に伴い、1日当たりの出動が平成22年度の1.0件から、平成23年度は1.6件と増加しています。

平成23年度の出動件数は1月末日までの10カ月で509件、運航開始から平成24年1月末までの総出動件数は923件に達し、栃木県の救急医療に貢献しています。

ドクターヘリの最大の目的は救命専門医・看護師を

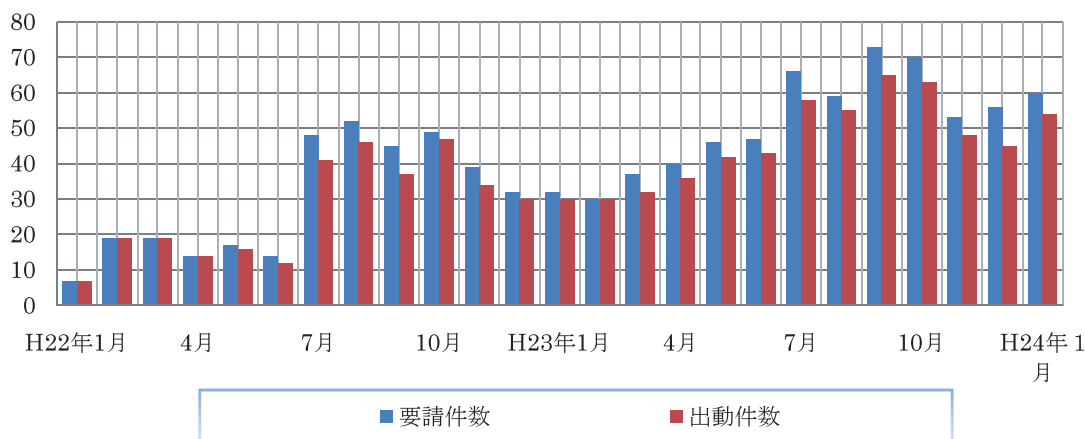
傷病者のもとへ届け救命処置を開始することです。

ドクターヘリの飛行スピードは時速約200kmで、基地病院から50km圏内であれば離陸から約15分で救急現場に到着し、傷病者の救命処置を開始することが可能となります。

ドクターヘリで救急医・看護師が一刻を争う傷病者のもとに赴くことにより、傷病者の救命率が向上し、救命後の後遺症が軽減されるなど、傷病者にとって大きなメリットが生まれます。



ドクターヘリ月別要請・出動件数の推移

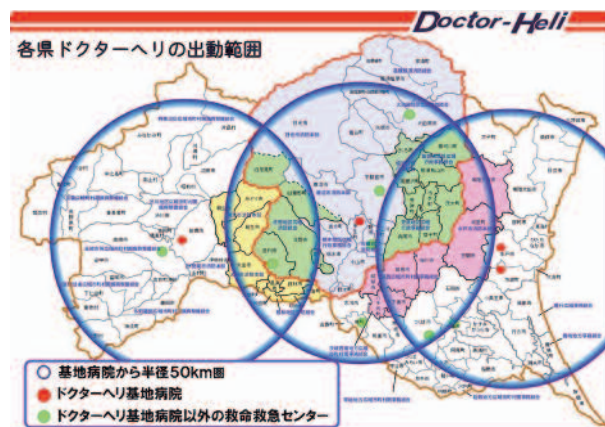


【北関東3県のドクターヘリ広域連携】

茨城県、栃木県、群馬県の3県は平成23年7月1日よりドクターヘリの本格運用を開始しています。

広域連携は、出動要請の増加に伴い、重複要請で出動できなかった事例が発生していることから、共通の課題をもつ茨城県及び群馬県と相互応援の体制を整備することが目的です。

群馬、茨城両県から栃木県への出動は本年1月末日までに16件出動しました。逆に本県から両県に対する出動は14件の出動がありました。



この広域連携協定より、北関東3県での更なる効率的な運用が可能となりました。

(※下記の出動基準に該当する場合に限りです。)

【他県のドクターヘリを応援要請できる基準】

- ①県内で重複出動要請があり、自県ヘリが出動できない場合
- ②多数傷病者が発生した場合で、自県のヘリのみでは対応できない場合

※ドクターヘリの運航上の安全性及び有効的な活動範囲(50Km圏内)を考慮し、現在のところ右記の地域のみ対象となります。

【基地病院】

茨城県：水戸医療センター(日～水曜日)
水戸済生会総合病院(木～土曜日)

栃木県：獨協医科大学病院

群馬県：前橋赤十字病院

出動ドクターヘリ	県外出動先	県外出動対象市町村名
茨城県 ドクターヘリ	栃木県	真岡市・芳賀町・市貝町 益子町・茂木町 那須烏山市・那珂川町 さくら市・高根沢町
 栃木県 ドクターヘリ	茨城県	城里町 笠間市 常陸大宮市 筑西市・結城市・桜川市 下妻市・八千代町
	群馬県	桐生市・みどり市 太田市・大泉町 館林市・板倉町・昭和町 千代田町・邑楽町
群馬県 ドクターヘリ	栃木県	足利市 旧栗野町(鹿沼市) 旧足尾町(日光市) 佐野市・岩舟町

【みなさまの栃木県ドクターヘリ事業へのご理解とご協力をお願いいたします】

ヘリコプターの特性上、出動の際には騒音が発生します。出動件数の増加に伴い、みなさまにはご迷惑をおかけする場合がございますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

当院の災害支援について

当院では昨年の東日本大震災において、さまざまな災害支援活動を実施いたしました。その活動についてシリーズでご紹介いたします。

◆①災害支援ナース派遣◆

獨協医科大学病院看護部



避難所での健康相談の様子

当院看護部では昨年の4月14日から4月18日にかけて、当時避難場所になっていた福島県の国立那須甲子少年自然の家で災害支援ナースとして活動しました。

少年自然の家には、約200名前後の方が福島県内から避難されており、浪江町や南相馬市から来た方も多数いらっしゃいました。

震災後1ヶ月を経過していたため、避難所では全てのことに支援介入する期間は過ぎ、プライバシーを尊重し各個人や家族単位での自立に任せる方向になっていました。

当院の支援としては、主に健康相談や介護が必要な方の支援、入浴介助、急病人の対応などを行いました。

災害支援では現地が必要としている事を感じとり、行動に移さなくてはなりません。

避難されている方は身体的な疲労と精神的なストレスが蓄積されており、体調を崩される方がいるかも知れないことやそのサインを見落とさないように、また私たちに話し掛けやすいように過度な介入は避けながらも適度な距離を保ち、接するよう心がけていました。

私達が到着した翌日は、少年自然の家で働く看護師が震災後初めての休暇がとれる日でもありました。そこには1人の看護師しかいなかったため、震災から約1ヶ月間、休みなく働き続けていたわけです。働いている方もぎりぎりの状態で働いている被災者であることを現実として目の辺りにしました。迷いや戸惑いの中、24時間体制で活動し、私たちの後任グループへ、行っている活動や気になる方の申し送りと今後検討すべき内容を申し送り、最終日となりました。



避難所に用意された医薬品・衛生材料

今回、現地には宇都宮駅から那須塩原駅まで公共交通機関を利用し、那須塩原駅からはりんどう湖ファミリー牧場の方がボランティアとして送迎して下さいました。さらに、少年自然の家では私達が休む部屋も用意して下さいました。沢山の方の支援の元で活動できたことに感謝しています。

今回の活動を終え、今自分が置かれている環境に感謝し、ひとつひとつを大切に自分ができることを考え行動していきたいと感じました。

未だ避難を余儀なくされている方が1日でも早く、元の日常生活に戻れることを願っております。

「病院への手紙」

～病院へのお手紙に関するご回答～

当院では、「病院への手紙」をご来院される皆様から募集しております。
ご意見箱に寄せられるご意見・ご要望に対するご回答をご紹介します。

病院内の案内表示について

……………40歳男性・30歳女性 他多数

- 病院にときどき見舞いに行きます。守衛の方からは案内をいただきますが、病棟への行き方が分かりにくいです。
特に本館病棟と新館病棟への案内表示がなく、分かりにくいです。分かりやすい表示をするなど、工夫していただければ病棟へ行きやすくなると思います。

当院からの回答

- 当院では患者様から頂いたご意見を踏まえ、病棟への案内表示について新規に掲出いたしました。また、ご要望の多かった放射線治療部門等の案内表示も分かりやすい案内表示に変更いたしました。

他の院内表示についても、より分かりやすい案内となるよう検討して参ります。



新設した病棟案内表示（本館売店前）

「東武おもちゃのまち駅～獨協医大病院ルート」 運行バスにワンステップバスが導入されました



新たに導入されたワンステップバス



車いす乗降が可能なスロープ
(車両中央)

東武鉄道おもちゃのまち駅と当院を結ぶ路線バス（関東自動車株式会社様運行）に本年の2月7日から、ワンステップバスが導入され、運行を開始しました。

今回のワンステップバス導入は、患者様より頂いたご意見を踏まえ、当院より関東自動車株式会社様に同車両の導入をご検討頂き、この度実現したものです。

今回導入されたバスは、獨協医大病院ルート初のワンステップバスとなり、従来のバスと比べてステップが1段少なく、乗降がしやすいバスです。また、車いすをご使用されている方も車両中央の中扉からのスロープから乗降することができ、利便性が向上しました。

関東自動車株式会社路線バス部様より、今後はノンステップバスの導入を前向きに検討するとのご回答を頂いており、導入が実現されればより一層の利便性向上が期待できます。

当院では、今後ともみなさまから頂いたご意見を踏まえ、患者様サービスの向上に努めて参ります。

看護師募集

○当院では看護師を募集しております。
詳細につきましては、下記窓口までお気軽にお電話ください。

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学病院 看護部

問合わせ受付時間
平日 9:00~16:00 土曜日 9:00~16:00 (第3土除く)
TEL : 0282-87-2395
FAX : 0282-87-2382

ドクターヘリ



新人教育



当院ではホームページを開設し、当院の最新情報を発信しております。

公開講座開催のご案内や外来曜日別担当医一覧表の掲載、また栃木県ドクターヘリの出動実績等も公開しております。是非ご活用ください。

URL : <http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

編集後記

当院広報誌編集委員会では、より多くのみなさまに当院を知って頂けるような最新情報を提供することを心掛けております。

みなさまが知りたい情報やご意見等がございましたら、「病院への手紙」にご記入くださいますようお願いいたします。

ドクターヘリも運航を開始して、2年が経過し、出動件数も増加して参りました。当院職員一丸となり、栃木県の救急医療を守るべく今後とも努力して参りますので、みなさまのご支援とご協力をお願いいたします。

獨協医科大学病院だより第33号

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地

TEL 0282-86-1111 (代表) FAX 0282-86-4775

当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日 / 平成24年 2月10日

編集・発行 / 獨協医科大学病院広報誌委員会

印刷 / 株松井ピ・テ・オ・印刷